

最近の消費動向（月別概況・個別ヒアリング）

28年10～12月期の百貨店・スーパーの合計売上高は、百貨店の衣料品不振の影響が大きく、全ての月で対前年を下回った。百貨店では、構造的な衣料品不振の長期化に加え、11月を除いて気温高が続いたことで秋冬物の衣料が伸び悩み、売上は10ヶ月連続のマイナスとなった。スーパーは、全店では3ヶ月連続のプラスとなったが、新規出店の増加と野菜の相場高が主な要因となっており、都市部を中心に競合が一層激化している。

家電大型専門店販売額は弱い動きが続いているが、新車販売台数は2ヶ月連続のプラスとなり、普通車及び小型車の人気モデルを中心に好調に推移した。今後は原油価格の上昇に伴う物価の上昇が続くことが予測されるため、実質賃金と共に消費マインドが低下することが懸念される。

月別概況

10月：(平年差) 平均気温+1.3℃、降水量-62.6%

10月は日曜日が前年より1日多かったものの、中旬以降に好天と気温高が続いたため、秋冬物商材は大幅に苦戦した。

百貨店では、気温高でコート、ブルゾン、セーター、ブーツなどの単価の高い衣料品が苦戦した。国慶節(中国の大型連休)商戦も伸び悩み、天候不順でサンマやサケ、マツタケなどの集荷が滞り飲食料品が苦戦したことも重なり、対前年を下回った。

スーパーでは、相場高の影響でニンジン、白菜、大根などが伸長したが、集荷自体が困難となったブロッコリーやほうれん草は伸び悩んだ。気温高で衣料品、寝具、鍋物商材(鍋用肉、練物、鍋つゆなど)は苦戦し、アイスクリームや飲料が好調に推移した。全店計では相場高の野菜が牽引する形で前年を上回った。

11月：(平年差) 平均気温-0.2℃、降水量-0.4%

11月はようやく気温が平年並みまで落ち着き冬物商材に動きが見られたものの、百貨店の衣料品不振の影響と休日1日減の影響で売上は前年を下回った。

百貨店では、前年が記録的な暖冬であった反動もあり、コート、ジャケット、手袋、マフラーなどの冬物商材の動きが活発化したが、それ以外の商品が概ね伸び悩んだことで、売上はマイナスとなった。

スーパーでは、引き続き相場高の野菜が牽引し、対前年比でプラスとなった。野菜相場が平均でも数十%以上上昇していることを受けて、小分けのカット野菜を求める動きも見られた。気温低下の影響で鍋物商材や手袋、マフラー、羽毛布団、電気ストーブ、防虫剤、カイロなどが軒並み売上を伸ばした。

12月：(平年差) 平均気温+0.8℃、降水量+137.4%

12月はクリスマスの日まわりが良く、クリスマス商戦は一定の盛り上がりを見せた。お歳暮商戦は年々緩やかな減少が続くが、正月おせち料理の予約販売は堅調に推移した。

百貨店では、11月から続く円安を背景に外国人旅行者への売上が大幅に増加し、全国では2015年4月に続いて過去2番目の売上規模となり、化粧品やハンドバッグを中心に全体を押し上げたが、日本人客への販売が伸びず、総売上高では前年に届かなかった。

一方スーパーでは、円安下でもベビー用紙オムツの外国人旅行者への販売が前年より大幅に減少した(一部は越境ECに代替されたためと思われる)。野菜の相場高は依然として続いているが、月下旬に気温が上昇したため、冬物衣料や鍋物商材、羽毛布団などが伸び悩み、全店では前年並みとなった。

百貨店A社

12月の売上高はクリスマス需要でバッグやアクセサリ、化粧品が伸長し、紳士、婦人問わず単価の高いコートの販売も好調に推移した。加えて、外国人旅行者への売上も好調となり、前年同月を上回った。

紳士服：一点単価、売上シェアともに高いコートやブルゾンが伸長した。クリスマスの日まわりが良かったこともあり、革小物やマフラーも好調に推移したことで対前年を上回った。

婦人服：ドレスは苦戦したものの、月上旬とクリスマス商戦を中心にコートやセーターが好調に推移した。高価格帯の商品では財布・革小物、バッグ、婦人靴などが伸長し、対前年同月比でプラスとなった。

子供服：関西広域からの集客に奏功し、対前年を上回った。外国人旅行者への売上は比較的堅調に推移しており、ベビー向け、幼児向け商品を中心に全てのカテゴリーで伸長した。

宝飾・時計：日本人富裕層への販売が好調に推移し、時計は前年並み、ジュエリーは大幅な増加となった。外国人旅行者への販売は前年を下回っているものの、一部に回復の動きが見られる。

服飾雑貨：化粧品、ハンドバッグが外国人旅行者への販売が好調なことに加え、クリスマス商戦も奏功したことで伸長した。また、季節商材ではトレンドのストールや帽子が好調に推移した一方で、傘や手袋は伸び悩んだ。

食料品：水産など生鮮食品では不調が続くが、三連休となったクリスマス商戦は大きく盛り上がり、酒類や和洋菓子、惣菜など幅広く伸長した。クリスマスケーキは、当日販売分は前年並みだったものの、事前予約分が好調に推移し、カテゴリー計の売上は前年同月比でプラスとなった。

スーパー B 社

スーパーB社の12月の売上高は前年同月を下回る結果となった。クリスマス商戦は伸長したものの、気温が上昇した年末に冬物商材が伸び悩んだ要因が大きい。

衣料品：ダイレクトメールでの販促が奏功した紳士カットソーや紳士カジュアルパンツは好調に推移したが、年末に一定の買い替え需要が発生する肌着やソックスは気温が上昇した影響もあり伸びを欠いた。カテゴリー計では対前年比でマイナスとなった。

食料品：農産畜産では相場高が続く白菜や販促が奏功したミカンなどが売上を牽引した。反面、鍋用の豚肉、鶏肉は不調となった。水産では、焼き魚や煮魚などの調理済みの商品が売上を伸ばした反面、ノロウイルス流行の影響で牡蠣は大幅に苦戦した。年始向けの商品ではニーズの多様化で、おせちの代わりに一般の和惣菜などを求める動きも見られた。

住居関連：冬物商材では電気ストーブやカイロが伸長した反面、毛布や羽毛布団が年末商戦で伸び悩んだ。ノロウイルス対策の漂白剤が売上を伸ばし、販促が功を奏した空気清浄機も売上を伸ばしたが、前年に外国人旅行者への特需があったベビー用紙オムツは大幅に

売上を落とし、カテゴリー計では対前年を下回った。

スーパー C 社

スーパーC社の12月の売上高は、クリスマス商戦以降に鍋物商材や衣料品が苦戦したため、前年同月を下回った。

衣料品：カテゴリー計では前年を下回った。月前半は好調に推移したものの、気温が上昇した年末商戦でコートやブーツなどの重衣料が伸び悩んだ影響が大きい、一点単価は上昇傾向にあり、オーガニックコットンを使用した衣類など機能性や健康性を打ち出した「良いもの」は売れるが、12月は客数が思うように伸びなかった。

食料品：相場高の野菜が売上を押し上げたが、鍋用の野菜や肉類、鍋つゆなどは苦戦した。お歳暮商戦は緩やかな減少傾向にある中でも二極化しており、メロンやブドウなどの果物やワインや日本酒といったこだわりのギフトは売上を伸ばしている。おせちも単価が上昇しており、カテゴリー計では前年並みとなった。

住居関連：風邪やインフルエンザの流行で、かぜ薬や胃腸薬、マスクが伸長した。他にも化粧品、掃除機などの清掃用品、おもちゃ（据え置きゲーム機）などが好調に推移したが、毛布、寝具、暖房家電、鍋用のガスボンベ、LED化が進む電球などは伸び悩んだ。カテゴリー計では、客数の減少が客単価の上昇を上回り、前年同月比ではマイナスとなった。

(中井章太)

大阪府の消費に関する経済指標

(単位：百万円、台、%)

		28年					
		7月	8月	9月	10月	11月	12月
大型小売店計	販売額 全店ベース	161,352	136,468	131,771	145,089	152,223	196,546
	(前年同月比、全店ベース)	0.5	▲4.7	▲4.6	▲2.0	▲1.2	▲0.7
	(前年同月比、既存店ベース)	▲0.9	▲6.1	▲5.9	▲3.0	▲2.0	▲1.3
うち百貨店	販売額	86,272	63,539	63,847	71,724	78,883	108,655
	(前年同月比、全店ベース)	▲1.6	▲7.1	▲7.6	▲5.4	▲4.1	▲1.5
	(前年同月比、既存店ベース)	▲1.6	▲7.1	▲7.6	▲5.4	▲4.1	▲1.5
うちスーパー	販売額	75,080	72,929	67,923	73,366	73,340	87,891
	(前年同月比、全店ベース)	3.1	▲2.5	▲1.6	1.6	2.1	0.2
	(前年同月比、既存店ベース)	0.1	▲5.2	▲4.2	▲0.5	0.5	▲1.2
コンビニエンス・ストア 販売額及び店舗増減	販売額 全店ベース	69,437	67,716	64,226	66,651	62,542	67,071
	(前年同月比、全店販売額)	5.7	5.5	6.5	5.8	6.0	4.9
	店舗数(前年同月比)	4.1	4.0	4.2	4.4	4.1	4.1
乗用車新車販売	台数	17,668	15,186	21,363	16,716	18,384	17,209
	(前年同月比)	▲5.0	4.8	4.8	▲0.1	10.9	10.3
家電大型専門店販売	(前年同月比)	4.5	▲13.7	▲2.2	▲1.3	▲7.9	▲1.7

資料：【大型小売店販売額】近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況」。

【コンビニエンス・ストア販売額】経済産業省「商業動向統計」。

【乗用車新車販売台数】(社)日本自動車販売協会連合会、(社)全国軽自動車協会連合会。

【家電販売額】経済産業省「商業動向統計」。

※平成28年10-12月期からコンビニエンス・ストア及び家電大型専門店販売額について、近畿だけでなく大阪府のデータを掲載している。